

「介護」に関するアンケート調査結果について

日本生命保険相互会社（社長：筒井義信）は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューのひとつとして、ホームページ（<http://www.nissay.co.jp>）内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「介護」に関するアンケート調査を実施いたしました。

来月は「クリスマス」に関するアンケート調査結果を発表いたしますので、ご期待ください。

《調査概要》

- 調査期間：平成25年10月1日（火）～10月27日（日）
- 実施方法：インターネット（PC・携帯電話モバイルサイト）による回答
- 調査対象：「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューアンケートへの訪問者
- 回答者数：10,129名（男性：5,676名、女性：4,453名）

<年代別回答数>

(名, %)

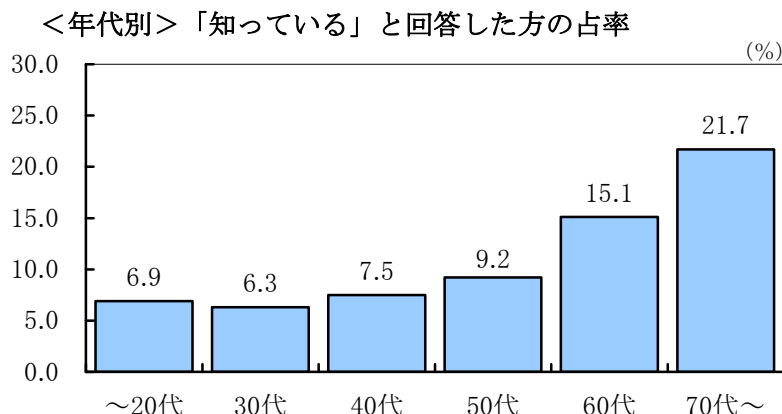
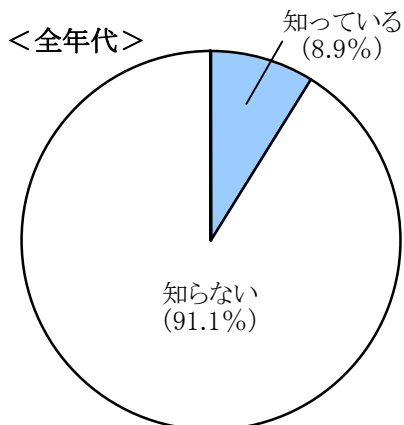
年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	合計
人数	829	2,159	3,275	2,455	1,061	350	10,129
占率	8.2	21.3	32.3	24.2	10.5	3.5	100.0

- 質問1：平成20年より、11月11日は「介護の日」となっていますがご存知ですか？
- 質問2：公的介護保険制度について
 - ◆公的介護保険制度の対象者（被保険者）は、何歳以上かご存知ですか？
 - ◆公的介護保険制度では要介護度の認定が行われます。「要支援」は1～2の2段階ありますが、「要介護」は何段階あるかご存知ですか？
 - ◆公的介護保険制度でも健康保険のように自己負担があります。介護サービスを利用する場合、支給限度基準額の何割が自己負担となるかご存知ですか？
- 質問3：介護経験について
 - ◆これまでにご家族等の介護を経験されたことはありますか？
 - ◆将来のご自身について、介護が必要な状態にならないか不安はありますか？
- 質問4：介護に対する準備状況について
 - ◆ご自身が介護が必要な状態になった場合の備えを進めていますか？
 - ◆具体的にどのような備えを進めていますか？
 - ◆（ご自身が介護をする可能性のある）ご両親等は、介護が必要になった場合の経済的な備えを進めていると思いませんか？
 - ◆現在、公的介護保険制度の見直しが進められています。今後、介護サービスの自己負担が引き上げられた場合等に備えて、民間の介護保険商品への加入や保障の増額をご検討されますか？

■質問1 平成20年より、11月11日は「介護の日」となっていますがご存知ですか？

(回答者数：10,129名)

- 約9割の方が「知らない」と回答。「知っている」と回答した方の占率は、年代があがるごとに高くなり、60代で約15%、70代以降が20%超となった。



■質問2 公的介護保険制度について (回答者数：10,129名)

- 3つの質問について、全年代の正解率はそれぞれ30～40%と半数以下。
 ○ 年代別では若年層ほど正解率が低く、男女別では男性より女性の正解率が5～10%程度高い結果となった。

◆公的介護保険制度の対象者(被保険者)は、何歳以上かご存知ですか？

<正解である「40歳以上」と回答した方の占率>

全年代	年代別						性別	
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	男性	女性
37.2	32.9	35.2	41.3	35.6	36.9	33.1	35.1	39.8

◆公的介護保険制度では要介護度の認定が行われます。「要支援」は1～2の2段階ありますが、「要介護」は何段階あるかご存知ですか？

<正解である「要介護1～5」と回答した方の占率>

全年代	年代別						性別	
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	男性	女性
38.7	34.7	32.0	33.6	43.9	53.8	54.6	35.1	43.3

◆公的介護保険制度でも健康保険のように自己負担があります。介護サービスを利用する場合、支給限度基準額の何割が自己負担となるかご存知ですか？

<正解である「1割」と回答した方の占率>

全年代	年代別						性別	
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	男性	女性
33.1	31.7	26.5	27.1	37.8	48.7	54.0	29.4	37.9

<ニッセイ基礎研究所 阿部崇 主任研究員のコメント>

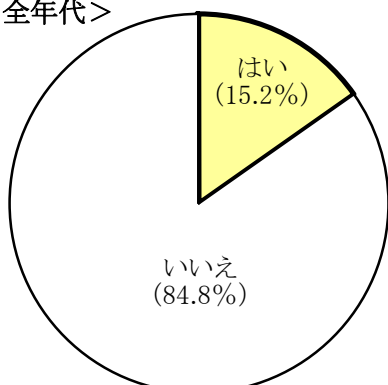
- 公的介護保険制度そのものは知っているも、対象者(被保険者)の開始年齢や、要介護度の段階など、具体的な仕組みは意外と知られていないようです。
 ただ、同年代の知り合いに公的介護保険制度の利用者がいるであろう、60～70代では、要介護度の段階、サービス利用時の利用者負担の割合などは約半数の方が正解しています。
 介護サービスを利用するかも、という身近な年齢にならないと認知は低いのもかもしれません。

■質問3 介護経験について (回答者数: 10, 129名)

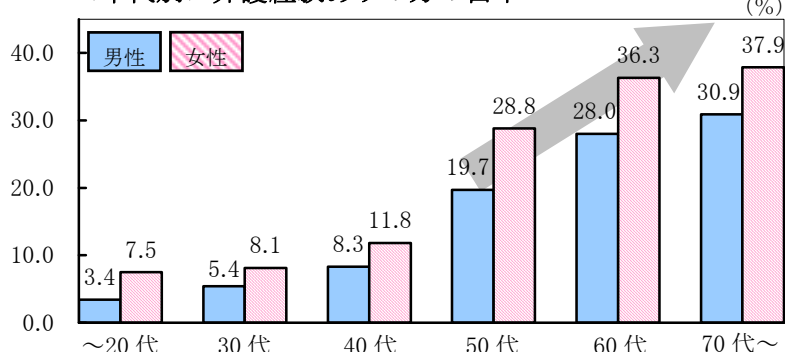
◆これまでにご家族等の介護を経験されたことはありますか？

- これまでに介護経験をされた方の占率は約15%。年代別では、シニア層ほど占率は高くなり、とくに女性が高い結果となった。

<全年代>



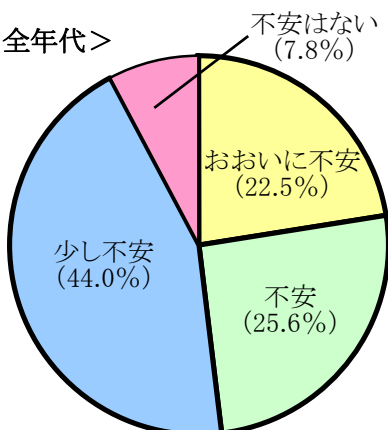
<年代別>介護経験ありの方の占率 (%)



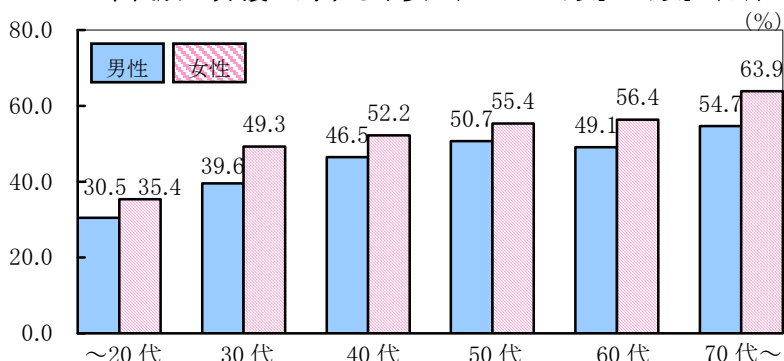
◆将来のご自身について、介護が必要な状態にならないか不安はありますか？

- ご自身の介護の不安については、「おおいに不安」「不安」で約半数を占め、「少し不安」を含めると9割以上の方が不安を抱えている結果となった。
- 男女別にみると、男性よりも介護経験の占率が高い女性の方が不安を抱えている方が多い。

<全年代>



<年代別>介護に対する不安 (「おおいに不安」+「不安」の占率) (%)



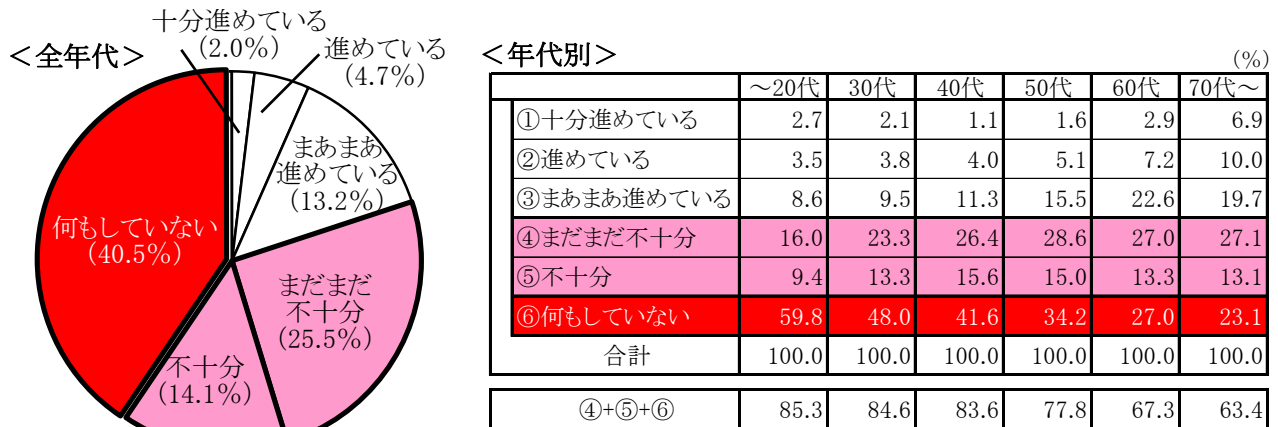
<ニッセイ基礎研究所 阿部崇 主任研究員のコメント>

- 介護経験については、親世代の介護が必要となりはじめる50代から高くなっています。70代は夫婦間の介護という場合が多いかもしれません。介護経験は、まだまだ女性の割合が高いですが、公的介護保険制度の施行(2000年)以前に比べると介護経験を持つ男性が増えているといえます。
- 介護経験とは違って、自分自身に介護が必要になるかもしれないという不安は早い年代から高くなっているのが分かります。特に女性では40代から過半数が大きな不安を感じています。子世代に負担をかけたくない、という思いの表れとも考えられます。

■質問4 介護に対する準備状況について

◆ご自身が介護が必要な状態になった場合の備えを進めていますか？（回答者数：10,129名）

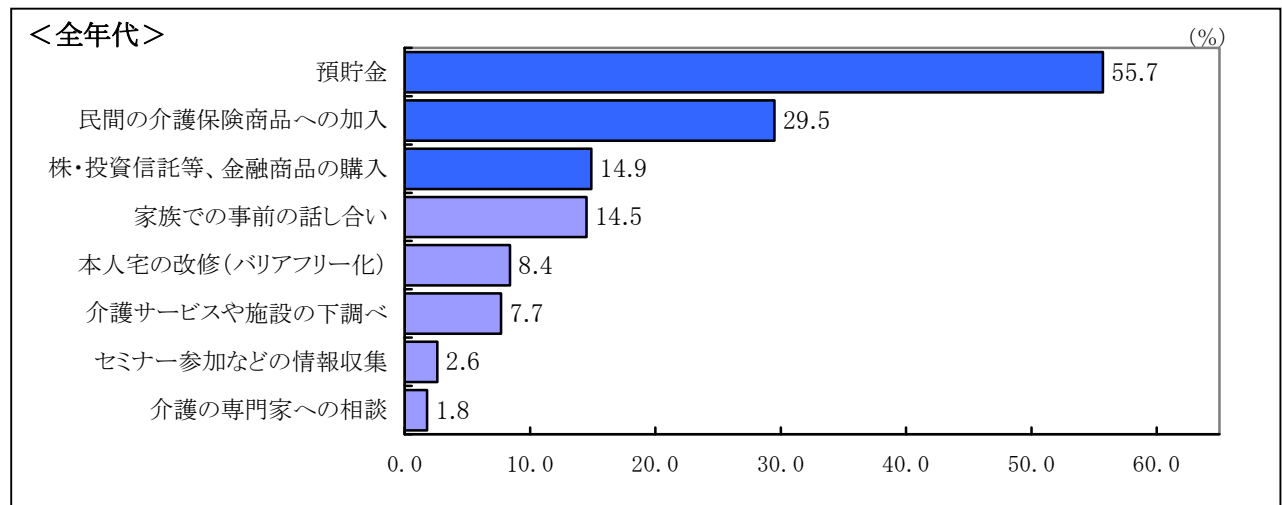
- 「何もしていない」と回答した方は約4割。「不十分」「まだまだ不十分」をあわせると約8割の方が介護の備えができていないと認識。年代別では、シニア層でも準備が不十分な方の合計は半数以上となった。



（「①十分進めている」「②進めている」「③まあまあ進めている」と回答した方への質問 回答者数：2,012名）

◆具体的にどのような備えを進めていますか？ ※3つまで選択可

- 1位「預貯金」、2位「民間の介護保険商品への加入」、3位「株・投資信託等の購入」。
○ 20～40代は「民間の介護保険商品への加入」、50代以降は「預貯金」が多い結果となった。



<年代別> 「預貯金」「民間の介護保険商品」「株・投資信託等、金融商品」による準備状況 (%)

準備手段	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
預貯金	55.7	33.6	49.2	53.3	57.8	67.7	61.7
民間の介護保険	29.5	53.3	37.5	38.7	24.6	12.7	13.3
株・投資信託など	14.9	4.9	13.2	13.4	17.2	19.9	11.7

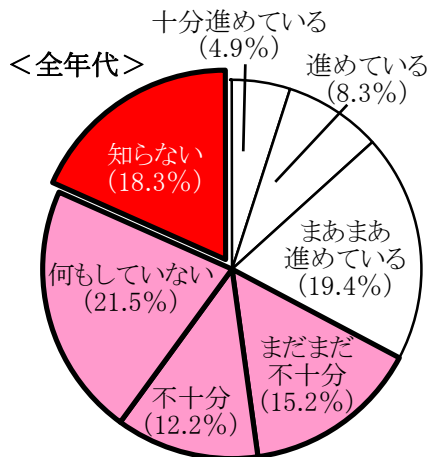
※各準備手段について、上位3つの年代を網掛け

<ニッセイ基礎研究所 阿部崇 主任研究員のコメント>

- 具体的な備えは、若い世代は「先の話だから」何もしていない場合が多いと思われる一方で、60代以降では「現実的な話になったがゆえに」不十分と感じていることが考えられます。
○ 備えの手段は、全年代で「預貯金」が圧倒的に多いですが、比較的若い40代までは、住宅・教育など資金需要もあり、「民間の介護保険商品」で備える割合が多くなっています。

◆（ご自身が介護をする可能性のある）ご両親等は、介護が必要になった場合の経済的な備えを進めていると思いますか？ （回答者数：8,906名）

○ 「何もしていない」「不十分」「まだまだ不十分」の合計が約5割。加えて、ご両親の準備状況を「知らない」が約18%で、とくに若年層が多い結果となった。

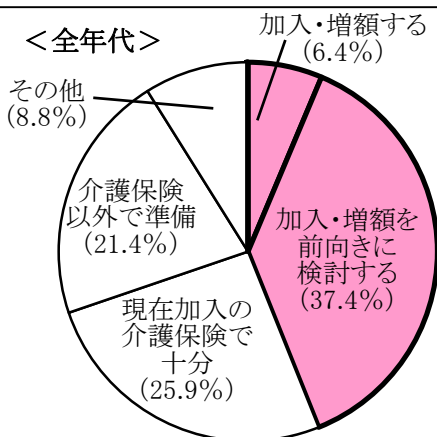


＜年代別＞

	（%）					
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
①十分進めている	4.0	4.3	3.9	6.2	8.7	7.0
②進めている	5.9	6.7	8.1	9.3	12.7	18.0
③まあまあ進めている	13.7	16.4	18.1	24.3	24.8	27.3
④まだまだ不十分	13.7	13.9	15.7	16.0	14.9	19.5
⑤不十分	10.7	11.5	12.5	13.0	12.7	12.5
⑥何もしていない	25.7	23.7	22.5	18.4	17.7	8.6
⑦知らない	26.3	23.5	19.3	12.7	8.5	7.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
④+⑤+⑥+⑦	76.4	72.6	69.9	60.2	53.8	47.7

◆現在、公的介護保険制度の見直しが進められています。今後、介護サービスの自己負担が引き上げられた場合等に備えて、民間の介護保険商品への加入や保障の増額をご検討されますか？ （回答者数：10,129名）

○ 「加入・増額する」「加入・増額を前向きに検討する」が43.9%と約半数の方が民間の介護保険商品での準備を検討するようだ。一方、「介護保険以外で準備」は21.4%。



＜年代別＞

	（%）					
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
①加入・増額する	8.8	7.9	6.4	5.6	4.2	5.4
②加入・増額を前向きに検討する	42.6	42.8	39.6	34.9	28.0	18.6
③現在加入の介護保険で十分	24.2	22.3	25.6	27.7	28.8	34.3
④介護保険以外で準備	17.5	19.8	20.1	23.1	26.5	26.6
⑤その他	6.9	7.3	8.4	8.7	12.4	15.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
①+②	51.4	50.6	45.9	40.5	32.2	24.0

＜ニッセイ基礎研究所 阿部崇 主任研究員のコメント＞

- 20-30代の若い世代で、民間の介護保険商品について「加入・増額する」「加入・増額を前向きに検討する」とした回答が過半数となっています。自分自身が介護を要する状態になることへの不安感とともに、医療や年金と同様に、将来の公的介護保険制度に対する不安感が、自助の対応を後押ししていることがうかがえます。
- 2つの不安感を軽減するため、民間介護保険商品へのニーズと期待は、今後ますます高まっていくと考えられます。

<ご参考>

■ ニッセイみらいのカタチ 介護保障保険の商品概要

選べる「11種類の保険」で、
さまざまな生き方にピッタリ寄り添う保障を提供

ニッセイ みらいのカタチ

《ニッセイみらいのカタチ 介護保障保険の特徴》

- 所定の要介護状態と死亡に備える保険です。
- 治療費等の費用・収入の減少等に備えることができます。

※詳しいご検討にあたっては、「契約概要」「注意喚起情報」「ご契約のしおりー定款・約款」を必ずご確認ください。

■ 「ケア・ガイダンス・サービス」の概要

介護保障保険を含む「みらいのカタチ」の契約者・被保険者様限定サービス

ケア・ガイダンス・サービス

～介護に備える訪問相談サービス～

**ニチイ学館の有資格者(ケアマネジャーなど)が
訪問し、将来の介護について
無料で相談をお受けします。**

この他にも、お電話での介護相談やみまもりほっとライン・
家事代行サービス等の各種取次サービスも承ります。

契約者・被保険者様
ご本人

ご本人の
配偶者

ご本人・
配偶者のご両親

離れて暮らしていても訪問いたします。

への訪問が可能です。

※介護訪問相談自体は無料ですが、相談を受けるにあたり必要な諸経費(利用者ご本人の交通費等)は、全て利用者ご本人で
ご負担いただきます。

※介護訪問相談は対象者1人につき1回、ニチイ学館の有資格者への取次ぎを行います。2回目以降のご相談はニチイ学館の
担当者に直接ご連絡ください。

※ケア・ガイダンス・サービス(以下、当サービス)は、(株)ライフケアパートナーズがご案内・お取次ぎするサービスであり、日本生命
の提供する保険またはサービスではありません。また当サービスのうち、介護訪問相談は、(株)ライフケアパートナーズがご案内・
お取次ぎし、(株)ニチイ学館が訪問するサービスです。ご利用に関して生じた損害について日本生命は責任を負いません。

※当サービスは、平成24年4月2日以降の「介護保障保険」の契約者・被保険者様からのお申込によりご利用になります。
(なお、訪問相談先は契約者・被保険者様ご本人とその配偶者様およびそれぞれのご両親が対象となります。)

※当サービスの内容・詳細につきましては、日本生命ホームページ、または「ケア・ガイダンス・サービスご案内ビラ」をご覧ください。

以上